

弘法さんかわら版

発行編集部

大塚和幸事務所

☎052-751-1955

kouhei@oh-kouhei.org

皆さんこんにちは。明けましておめでとございます。かわら版も足かけ五年目に入りました。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

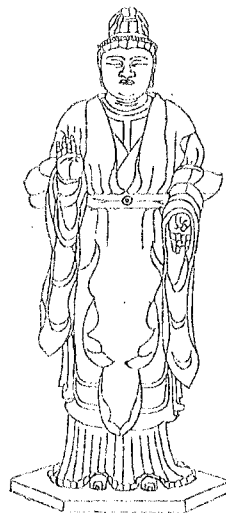
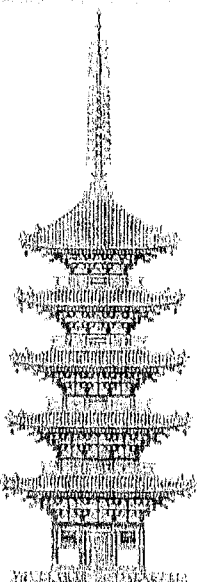
★天部はインドの神様

さて、昨年来、かわら版では仏像について勉強しています。仏像は大きく四つに分類され、昨年は如来・菩薩・明王についてお伝えしました。今月からは天部編です。

天部の「天」は天竺(てんじく)の「天」、インドのことです。つまり、天部は仏教が興るよりもはるか昔からインドに伝わる神様をモデルにしています。だから独特の姿をしているんですね。今月号では帝釈天(たいしゃくてん)について調べてみました。

★寅さんでお馴染みの帝釈天

帝釈天と聞けば、葛飾柴又帝釈天。そう、皆さんお馴染みのフーテンの寅さん。映画「男はつらいよ」シリーズで



帝釈天

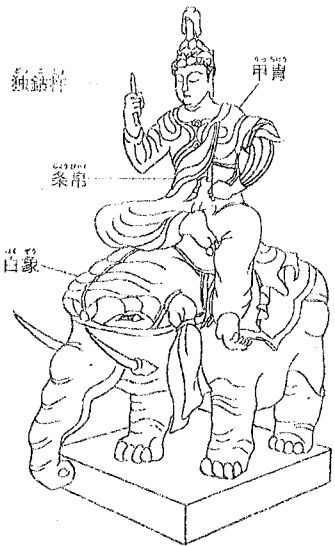
「生まれは葛飾柴又。帝釈天で産湯を使い...」という口上が頭に浮かびますね。柴又帝釈天は正式には経栄山題経寺(ききょうえいざんだいききょうじ)と言います。日蓮上人作の帝釈天板仏をご本尊にしています。

帝釈天は武術の神様で、金剛杵(こんごうしよ)を武器に阿修羅と戦い、阿修羅を仏教に帰依させました。古代インドでは宇宙の中心とされる須弥山(しゆみせん)の山頂にある善見城(喜見城)に住み、四天王を従えて下界の不正や悪事を監視しています。また、雨を降らせて豊かな農作物をもたらす雷雨神(らいていしん)としても知られています。

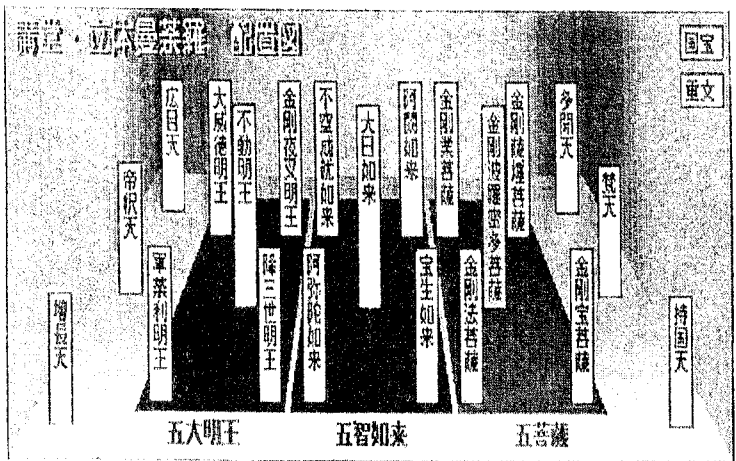
★東寺講堂の立体曼荼羅

全国各地にある帝釈天像の中でも、最も有名なのは京都東寺の国宝帝釈天像。東寺は弘法大師が嵯峨天皇から下賜された布教の拠点です。鐘(かね)よろい(よろい)をまとい、手には阿修羅を倒した

金剛杵。白い象の上に乗ったためずらし
い坐像です。後世に作られた坐像には、
頭が複数ある**羅鳥がちょう**の上に乗
ったものもあります。



東寺を下賜された弘法大師は、真っ
先に講堂を造りました。この構造の中
に配置された仏像群は**立体曼荼羅**と
言われています。人々が**曼荼羅の世界**
仏の階位を理解し易いように弘法大
師が発案したものです。なるほど、如
來・菩薩・明王、そして天部の関係が
よく分かりますね。



★東寺と言えは弘法さんのルーツ

全国各地の弘法さんの縁日は、弘法
大師の**月命日**に開かれています。そし
て、その**ルーツ**(始まり)は東寺で始ま
った**弘法市**です。弘法大師信仰が篤く
なった平安時代に、東寺**南大門**の前に
一服一銭という**茶店**ができたことが
きっかけだと言われています。



当初は三月二十一日の**年命日**(正御
影供)ししょうみえくだけに行われてい
ましたが、十三世紀頃から月命日にも
行われるようになりました。江戸時代
から明治時代にかけて、弘法大師縁
(ゆかり)のお寺や、四国霊場の写し
でも縁日が広がっていきました。

**明治三十七年創建の日泰寺。大正時
代になると、周辺に日本最小の四国霊
場の写し**が造られ、弘法さんの縁日も
開かれるようになりました。

★次回は四天王

ライバル同士の四人の関係を「**四天
王**」と表現することがあります。この
四天王、実は帝釈天が従えている大部
の仏様のことで、米月号は四天王に
ついてお伝えします。乞うご期待。